2016年9月FOMCのポイントと金融政策の見通し

大和総研 ニューヨークリサーチセンター エコノミスト 橋本政彦

◆ 9月FOMCのポイント

- 政策金利の誘導目標レンジは0.25~0.50%を維持⇒最近の軟調な経済指標を受け、現状維持は市場予想通り
- 政策決定に際しての投票では、反対票が3票に増加⇒FOMC参加者のうち、利上げ支持派が増加
- FOMC参加者の政策金利見通しでは、少なくとも 年内1回の利上げを見込む参加者が大半
- 利上げの環境は整いつつも、FRBは「さらなる証拠」を待つ

◆ 9月FOMCの声明文のポイント

経済の現状認識は上方修正 前回「緩やかなペースで拡大」⇒今回「緩やかなペースから加速」 個別項目では労働市場に対する評価を上方修正

- 経済見通しも上方修正「短期的な経済見通しのリスクはおおむね安定的」⇒上振れリスクと下振れリスクが均衡
- 金融政策運営に関しては、「政策金利を引き上げる根拠は強まったと判断するが、目標に向けた進展のさらなる証拠を待つ」

◆ 経済見通しはほとんど修正されず、長期見通しを引き下げ

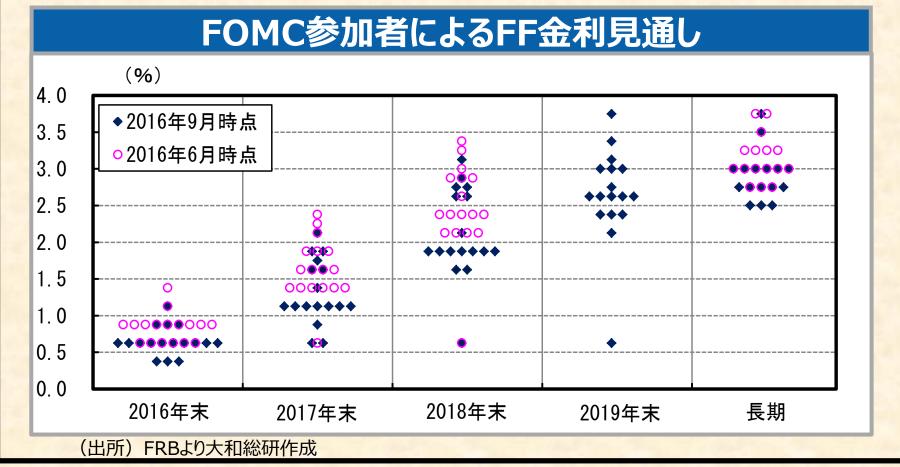
FOMC参加者による経済見通し

(単位:%)		中央値				
		2016	2017	2018	2019	長期
実質GDP成長率	今回	1.8	2.0	2.0	1.8	1.8
(40の前年比)	6月	2.0	2.0	2.0	1	2. 0
失業率	今回	4.8	4.6	4.5	4. 6	4.8
(40の平均)	6月	4. 7	4.6	4.6	1	4.8
PCE上昇率	今回	1.3	1. 9	2.0	2. 0	2. 0
(40の前年比)	6月	1.4	1.9	2.0	_	2.0

(注)失業率は10-12月期平均、その他は10-12月期の前年比。

(出所) FRBより大和総研作成

◆ 政策金利見通しは下方修正



- ◆ 今後の金融政策の見通し
- 今回の結果を受けて、2016年内利上げの可能性が高まる
- 利上げに向けた「さらなる証拠」としてはインフレ率が重要
 - ⇒エネルギー価格による押し下げ剥落で、インフレ率は今後加速
- 11月FOMCの直後には大統領選挙
 - ⇒12月に追加利上げの公算大
- 新大統領就任直後の2017年1-3月期も政策変更をしづらい
 - ⇒次の利上げは早くても2017年半ば以降か